



花だより

鳥だより

ポロト案内舎 2018年 1月 73号



各地から寒波のニュースが届いています。ポロトはさぞや寒かろうと思われているようです。ところが、こちらは暖かい冬を過ごしています。最低気温が -10°C を下回る日は、ほとんどありません。雪も少なく、道路は乾いています。スノーシューやスキーでの雪遊びがまったくできません。このまま春になるのでしょうか？



冬のタンチョウ



浜中町の西側に位置する火散布(ひちりっぷ)沼は、海水が入り込むため、冬でも凍りません。そのため、オオハクチョウやカモがたくさん集まります。カモを狙って、オオワシやオジロワシもやって来ます。そしてここは、タンチョウの越冬地にもなっています。最近、十数羽のタンチョウが、一か所で休息し

たり、食べ物を取る光景が見られています。ところが今年は、写真のように2羽のタンチョウが、岸边近くの林の中で休んでいるだけでした。去年は、ここに十羽以上も集まっていたのに、寂しい限りです。

雪が少なく、暖かい日が多いので、ツルたちの暮らせる場所が各地に残っているようです。2月になって、吹雪の日や寒い日が続けば、住み家を失くしたツルたちが集まってくると思います。タンチョウは、夫婦や家族だけで暮らしたい鳥なのです。



ワシが集まるときは



真冬のポロト沼は、白く静寂な世界です。ほとんど動くものを目にすることはありません。ところが、凍った沼の上に、点々とワシがたたずんでいました。オオワシやオジロワシ、合わせて6羽もいました。この時期のワシは、食べ物を求め、各地を放浪しています。ワシのいるところに、食べ物あり。ワシはワシを呼び、高空から新たなワシが舞い降り

てきます。

何がワシを誘引したのか、気になりました。秋にサケを捕獲する水路に行ってみると、凍った水路に、魚が十数匹横たわっていました。完全に氷漬けになったものも、氷から飛び出している魚もいます。雪の上には、カラスの足跡がたくさんついています。そして、体をつつかれ、半分になった魚が転がっています。



魚たちの第一発見者は、カラスのようです。目ざといカラスが、いち早く見つけ、すでに味見を済ませていました。

魚はすべてアメマスでした。それもほぼ同じ大きさの魚体です。カラスやワシにはまたとないご馳走ですが、どうしてこうなったのでしょうか。魚が水路で氷漬けになることは、めったにありません。おそらく、前日



の低気圧の接近で、高潮が発生したことが原因だと思います。ポロト沼は凍っても海とつながっています。高潮によって海水が大量に沼に流れ込み、アメマスの群れも一緒にやって来たのでしょう。氷で蓋をされた状態の沼に流れ込んだ水は、氷を押し上げ、その勢いに巻き込まれたアメマスが、水面近くに押し上げられ、そのまま凍ってしまったと考えられます。写真のアメマスは死んで



いるように見えます。しかし、氷がとければ、また泳ぎ出すことでしょう。凍っても死にません。

ところで、ワシたちはご馳走にありつけたのでしょうか？魚を発見した次の日には、近くの電柱の上に、1羽のオオワシしかいませんでした。水路をのぞいてみると、魚はすっかりなくなり、雪の上に無数の足跡だけが残されていました。そしてポロト沼は、何事もなかったのように、白く静寂な世界に戻っていました。



エゾモモンガ・ウォッチング始めます



霧多布の森には、エゾモモンガが暮らしています。冬はモモンガを見るのによい季節です。それは、木の葉がなく森の中がよく見通せること。日没が早いので、夜行性のモモンガの活動開始が夕方になること。寒さに耐えるために、モモンガがひとつの巣穴に3~5匹も集まっていること。そして、おそらくヒグマは冬眠中であることや、うるさい蚊や

ダニに悩まされないことがあげられます。

1月の終わり、浜中町でガイドツアーや宿を営んでいるグループ「霧多布エコツアーズ・ナビ」のメンバーが集まり、エゾモモンガ講座を行いました。霧多布の夜の生きものたちの魅力を伝える



ツアーをつくりたい、との思いから実施しました。この日は、モモンガの生態に詳しい霧多布湿原センター職員に講師をお願いし、モモンガの生活や観察のポイント、注意点をレクチャーしてもらいました。その後、日没前の森を一緒に歩き、モモンガがエゾマツの葉を食べた跡や巣穴を探しました。霧多布の森では、木の根元にできた穴

を利用するなど、他の地域では知られていない行動を観察することができます。

日没後、モモンガが利用しているの巣箱の近くで、寒さに耐えながら待つこと十数分。大きな目をした顔が、突然巣穴から出てきました。あたりの様子を伺うことさらに数分。危険がないと判断したモモンガは、巣箱から出て、木を駆け上がり、闇に消えました。さらに、2匹目、3匹目と、次々に姿を現し、同じように木に駆け上がっていきました。この日は、空を飛ぶ姿を目にすることはできませんでしたが、モモンガが姿を現した途端に、すっかり寒さを忘れ、魅了されてしまいました。写真は、モモンガを驚かさないように赤色ライトを使って撮影しています。

エゾモモンガ・ウォッチングツアーは、2月から3月まで実施します。詳しくは、ポロト案内舎のホームページをご覧ください。<http://poroto.la.coocan.jp/making/Momonnga.html>



冬のシロとクロ



シロは14歳、クロは12歳になりました。冬は、家の中で過ごしています。暖かい日中は、庭で遊ぶこともあります。

シロは後ろ足が弱り、フラフラしながら歩いています。少しの段差も上り下りがきついようで、腰を支えてあげています。クロは、まだまだ元気いっぱい。ボール遊びが大好きで、一日数回はボールを追いかけて走り回っています。